

中世 近世

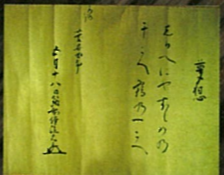
此の御願は、元禄三年八月二日、大友家文書・御花資料館蔵
 大友氏と志摩郡との関わりは、鎌倉時代に遡る。大友頼泰は、弘安9年(1286)に、蒙古合戦(弘安の役)の恩賞として、「怡土庄志摩方三百町惣地頭職」を鎌倉幕府から与えられた。惣地頭は現地を實際に経営する小地頭(名主)から年貢課役等を徴収する権利を持っていた。しかし、入部後20年にわたり領主内の名主の抵抗に遭い、円滑に領有することができなかったようだ。(福岡市博物館 戦国時代の博多展7より)



芥屋の神楽面
 芥屋集落のほぼ中央に位置した垣土神社では、戦後まで神楽が舞われていた。その起源は定かではないが、ひとつひとつの表情が長く続いた証として今に伝えている。



寛永9年(1632)創建の
 板井神社本殿・拜殿
 (福岡県指定有形文化財)



黒田忠之自筆書付「夢想」
 (板井神社文書)



文禄4年(1595)筑前国志摩郡御床村核地帳
 (鎌田恒雄家文書・福岡県指定有形文化財)
 太閤核地の実状を示す貴重な史料である



鷗清宗の僧、仙居義梵
 (1750~1837)
 が描いた芥屋大門画賛
 (出光美術館蔵)

原始



大陸文化の影響を受けた
 新町支石墓群
 (国指定史跡・弥生時代早期)



御床松原遺跡などから出土した
 中国古銭(貨泉・半兩銭)
 古代から大陸との活発な交流を物語る



久米遺跡から出土した
 細形銅剣と銅戈
 (弥生時代中期前半)



シカ・太陽・建物・トリを描く弥生時代の琴
 (福岡市西区元岡遺跡出土・福岡市教育委員会蔵)



琴板の側板に刻まれたシカ・高床建物・トリの胴部などの絵画
 (中央の円は太陽か)

自然



糸島半島と
 町のシンボル可也山



弓矢を描く白砂青松の瀬ノ浜、
 稀少な貝類の生息地でもある



古くから糸島観光の
 シンボル芥屋大門



板井二見ヶ浦の夕日
 ここからサンセットロードがはじまる

近代

近世



明治8年6月の志摩郡今津村
 地所取調帳の表紙



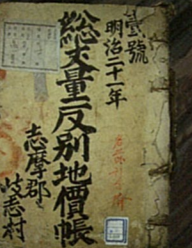
明治8年6月の志摩郡板井村
 地所取調帳の表紙



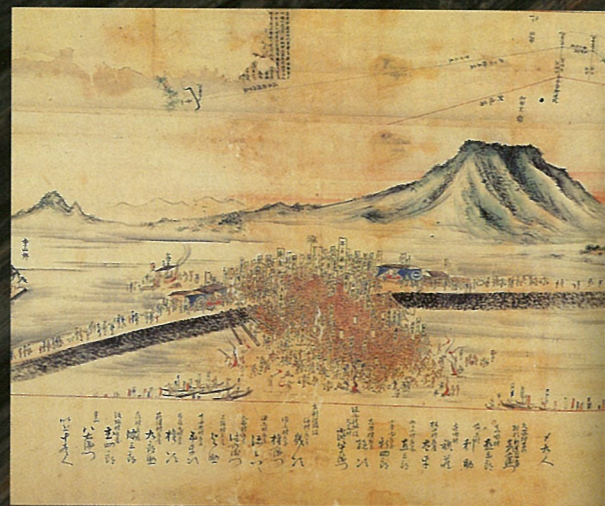
志摩郡元岡村大字太郎丸
 修正地価帳
 総丈量反別地価帳の表紙



明治21年の志摩郡岐志村
 総丈量反別地価帳の記載事項



明治21年の志摩郡岐志村
 総丈量反別地価帳の表紙



嘉永5年(1852)久家嘉永開の「瀬止図」(鎌田俊章氏所蔵)



野村望東尼獄舎を復原(姫島)

中世

古代

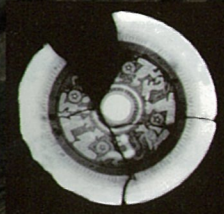
御床の西林寺境内仏堂に
 安置される木造阿彌陀如来坐像
 (国指定重要文化財)



可也山北麓の巖山虚空蔵堂に残る
 十一面観音立像
 (福岡県指定有形文化財)



小金丸満福寺の
 本尊として残る
 木造新迦如来坐像



津和崎権現古墳画像鏡X線写真



津和崎権現古墳出土の画像鏡
 (古墳時代前期・伊都国歴史博物館蔵)



糸島最大級の
 墳丘をもつ
 井田原岡前方後円墳



開古墳から採集された
 内行花文鏡片
 (福岡市博物館蔵)



川邊里戸籍の背景を採る
 手がかりとなる解除(碓)木簡
 (元岡桑原遺跡出土・福岡市教育委員会蔵)